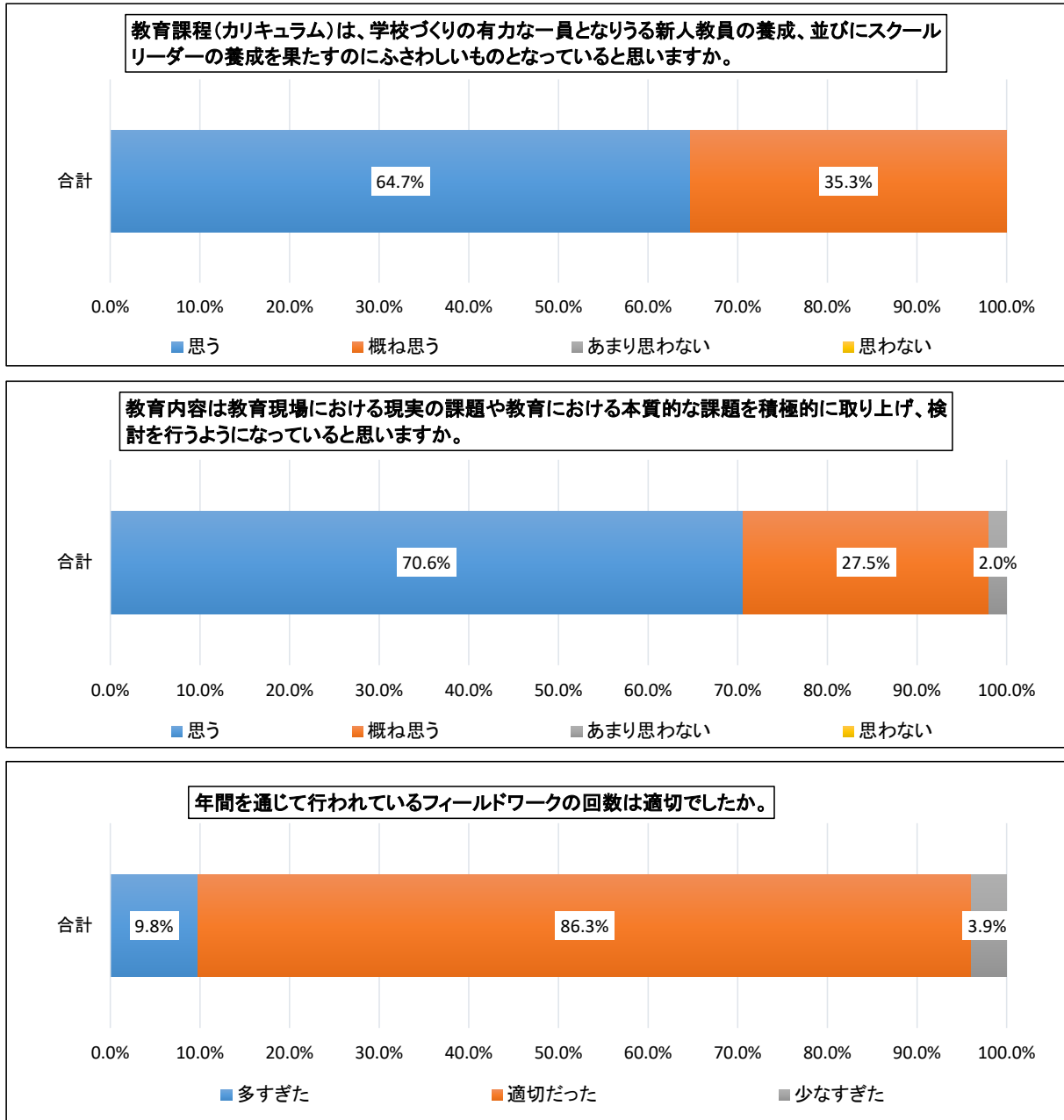
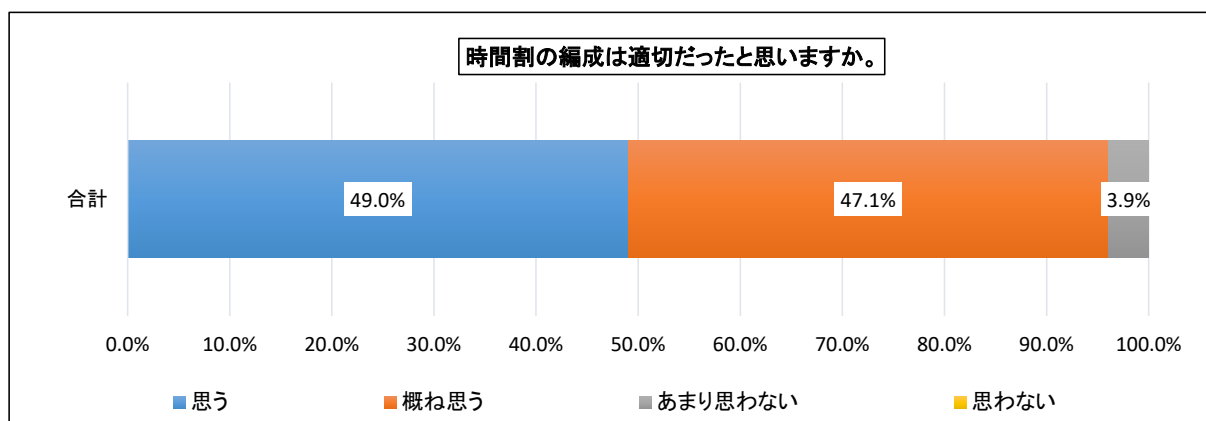


2025 年度「研究科アンケート」

2025 年度の研究科アンケートは 2026 年 3 月に実施され、在學生 23 名、修了生 28 名、計 51 名から回答が得られた。回答結果の傾向及び特徴について、設問区分ごとに以下にまとめる。

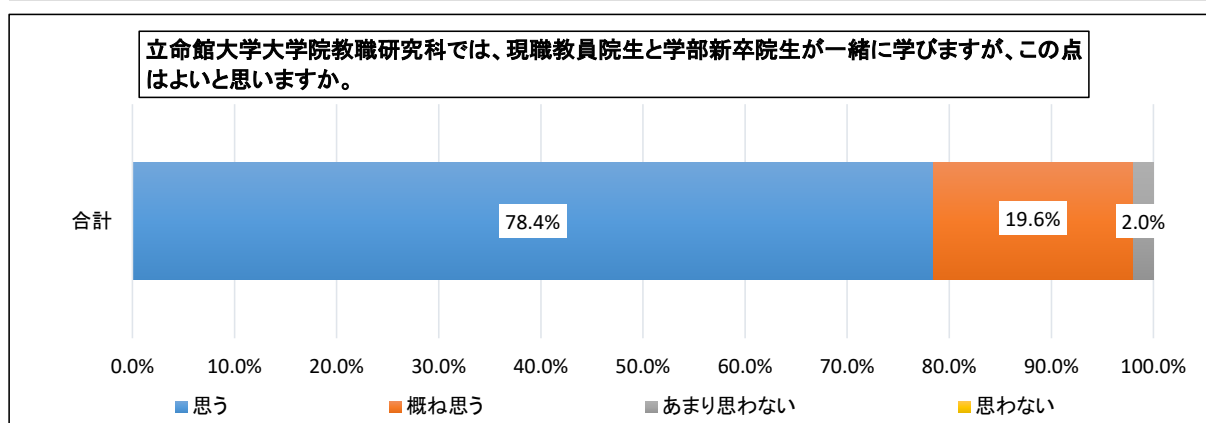
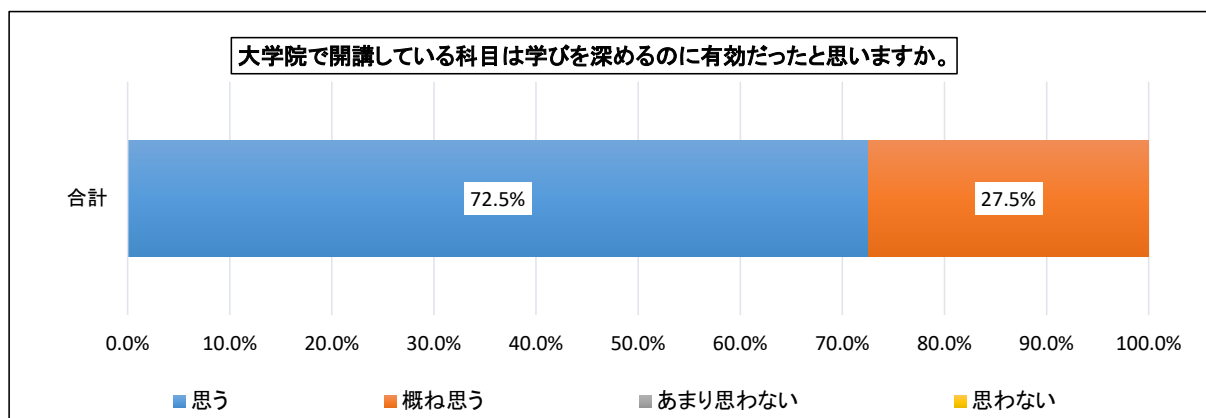
(1) 教育課程について

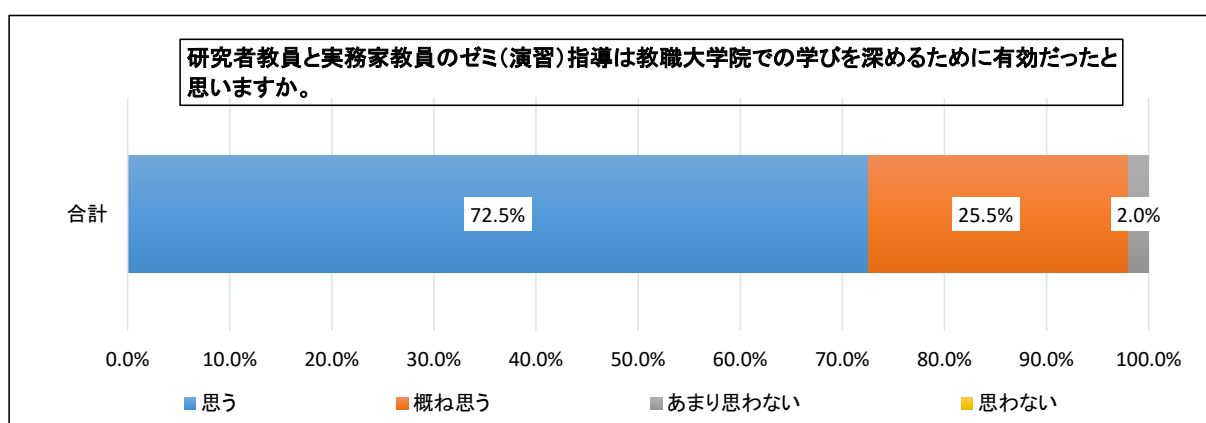
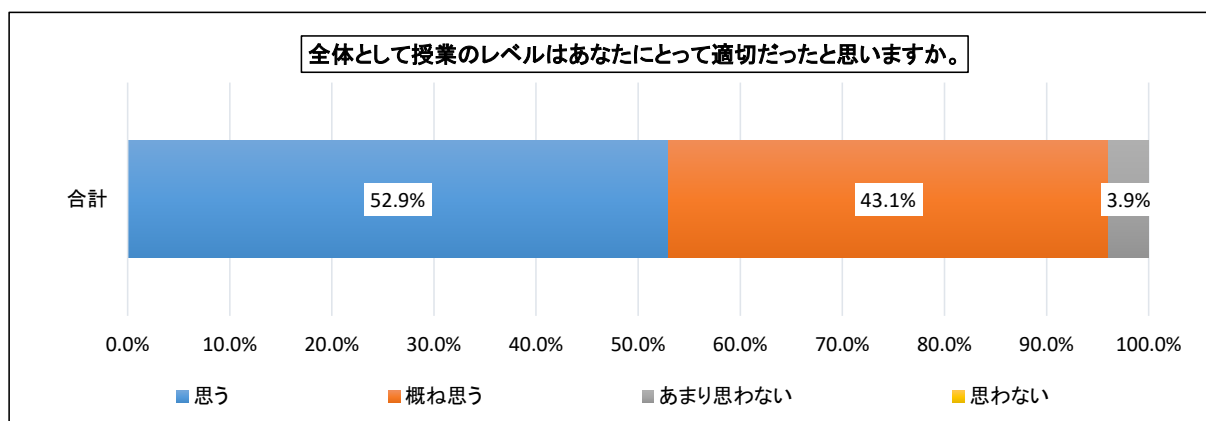




教育課程にかかわる項目については、前年度と同様に、肯定的な回答の割合が9割以上の良好な水準にある。カリキュラム全体を評価する「学校づくりの有力な一員やスクールリーダーにふさわしいカリキュラム」項目について、最も肯定的な「思う」回答の直近3年の推移をみると、56.6%→58.5%→64.7%と増加している。

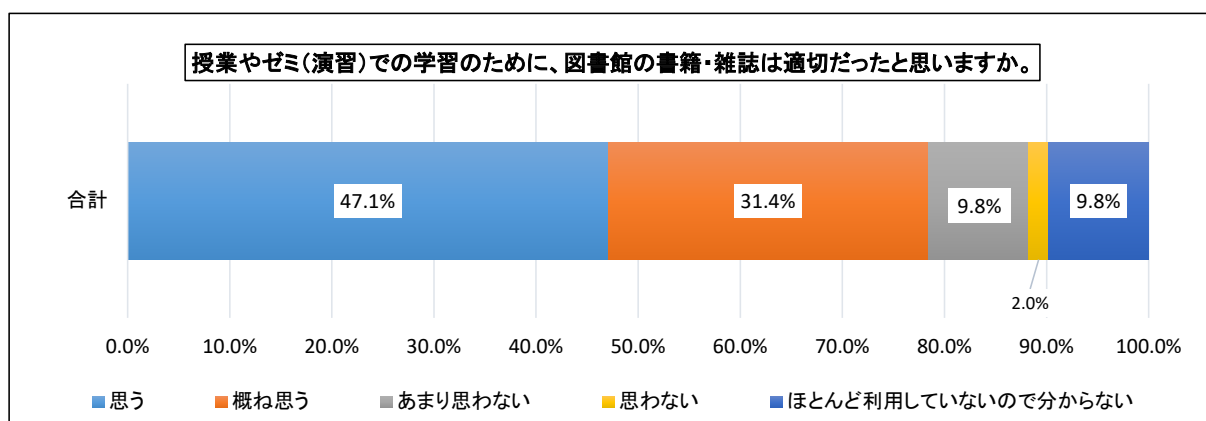
(2) 授業について

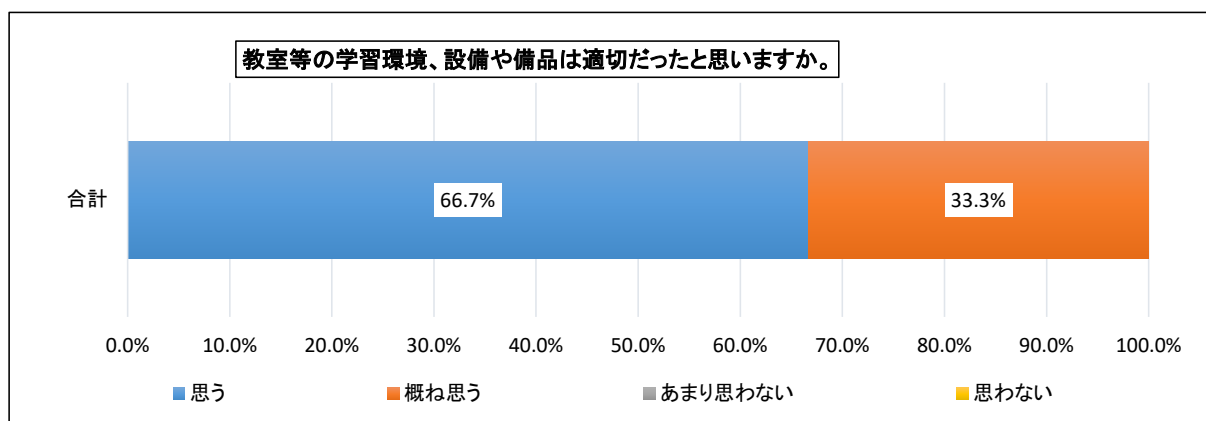
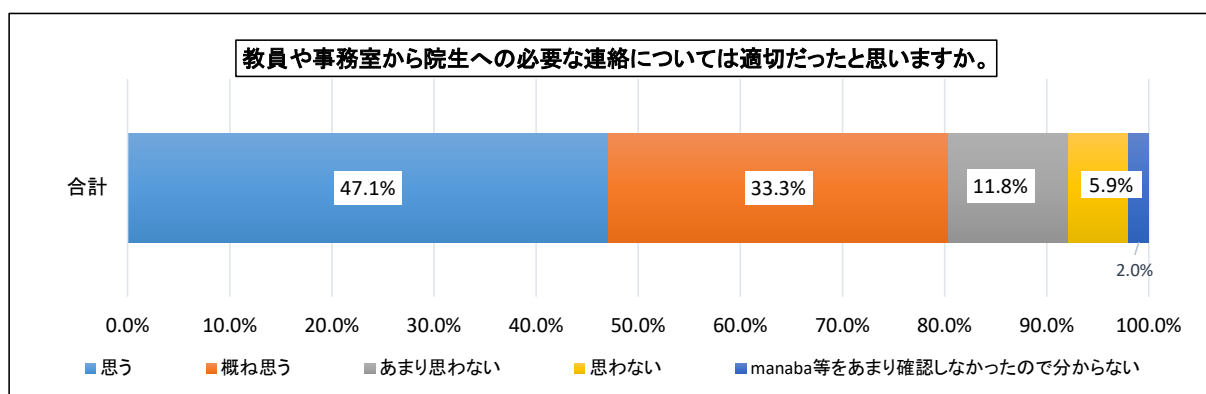
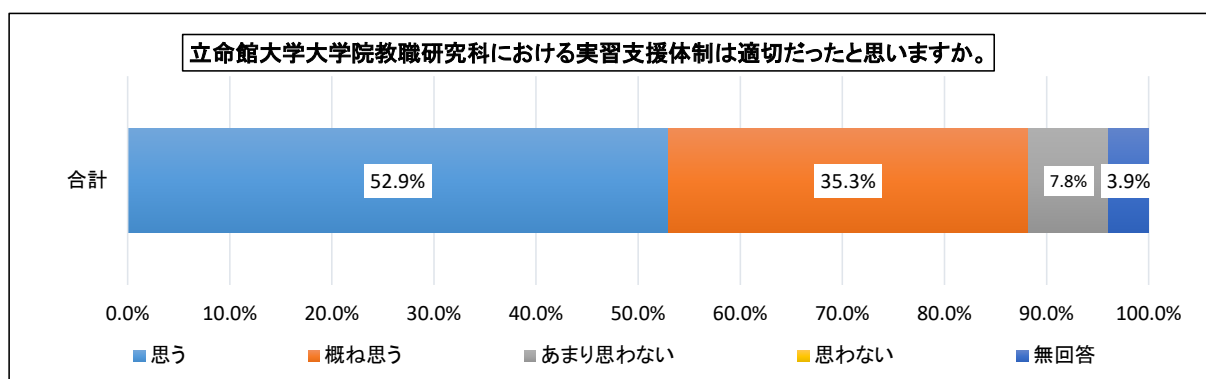
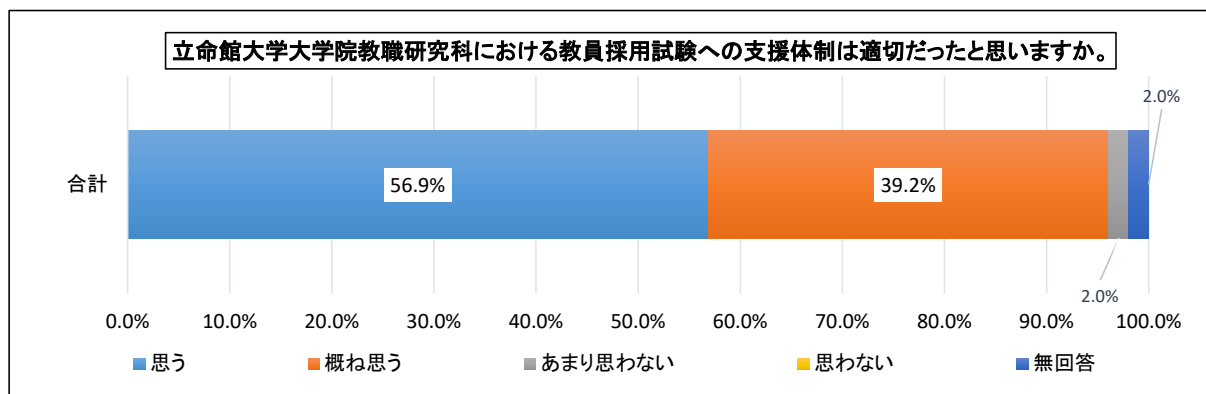




「授業について」の結果も、前年度と同様に、肯定的回答が9割以上の高い水準で維持されている。「学びを深めるのに有効」に関して、最も肯定的な「思う」回答の直近3年の推移をみると、62.3%→75.5%→72.5%と推移している。

(3) 学生支援について

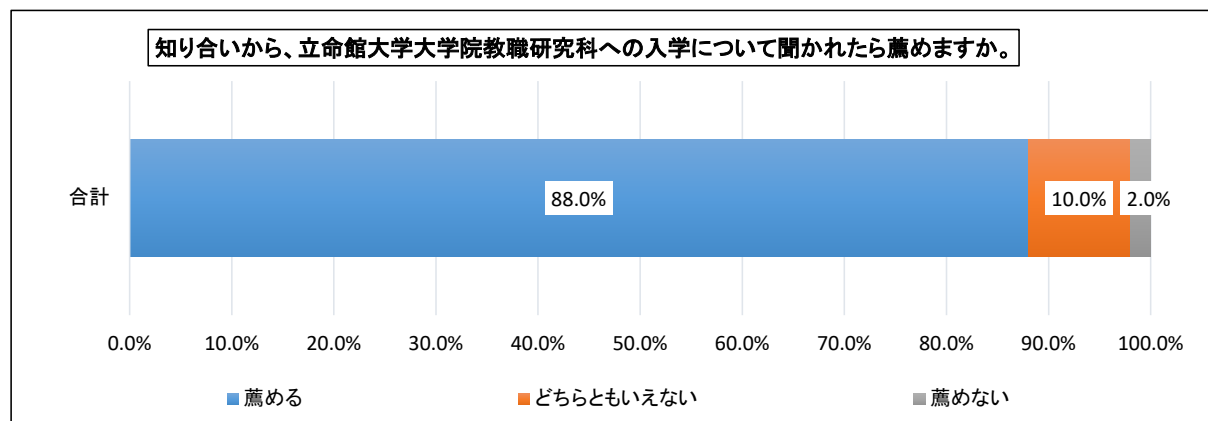
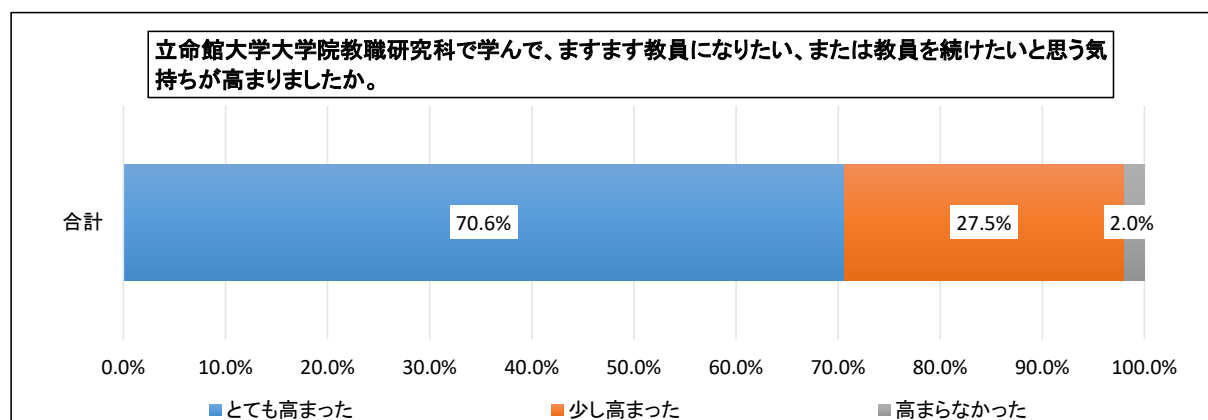
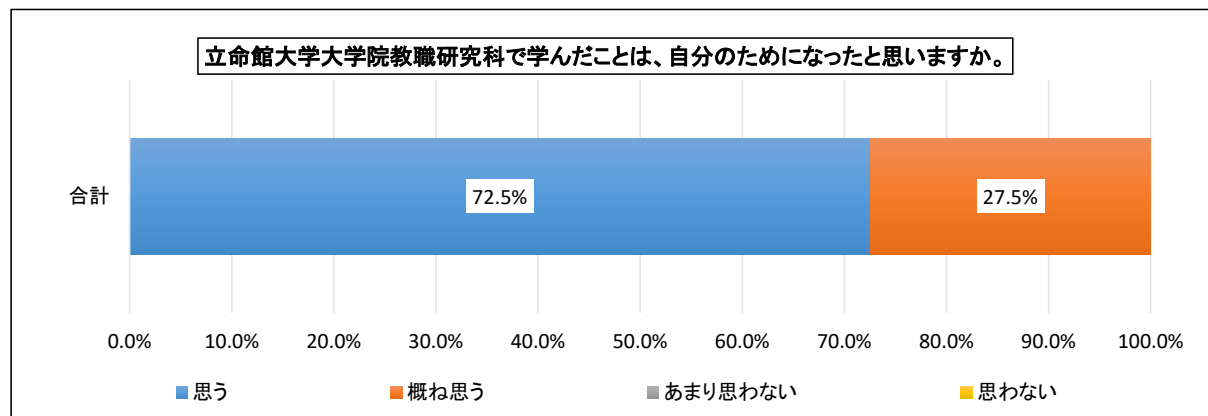




「学生支援について」は、1項目（「図書館の書籍・雑誌」）を除き肯定的回答が9割以上となっているが、主にストレートマスターを対象とした内容項目（教員採用試験への支援や実習支援

体制等)もあり、現職教員院生による無回答が含まれている。「図書館の書籍・雑誌」について否定的回答(あまり思わない・思わない)についてみると、昨年度が3.8%だったが今年度は11.8%となっている。また、「院生への連絡」については、5.9%が「思わない」としており、各種のシステム変更もある中、多様な勤務形態・受講形態の院生に対して確実に連絡するよう工夫する必要がある。

(4) 全体を通して



全体的な傾向としては、教職大学院での学びを通して自己の成長を実感するとともに、教職を志望あるいは継続する意欲の向上が図られている。他方で2% (昨年度は5%)の院生が教職の志望や継続度が高まらないという方向に回答しており、より個別的な支援が重要である。

自由記述については、様々な学校種や教科の教員と交流ができる、大学院教員の研究領域が多様である、オンラインで学べる、ストレートマスターと現職教員と一緒に学べる、志の高い教員と学べる、気軽に大学院教員に相談できる、などが良い点として指摘がなされている。他方で、研修が研究テーマとつながりにくい点、春semesterのコース共通科目のさらなる充実、オンライン受講生へのさらなる問いかけやなげかけが欲しい、などが課題としてあげられた。